令和８年度　全国学力･学習状況調査における勝山市の結果について

勝山市教育委員会

令和８年度全国学力・学習状況調査（小学校６年生、中学校３年生対象・４月実施）について、勝山市の児童生徒の結果をお知らせします。

学校と勝山市教育委員会では、「児童生徒が主体の楽しくわかる学び」の実現に向け、個別最適な学びと協働的な学びの具体的な実践に取組み、ICT 機器の効果的・効率的な活用や多様な指導方法・指導体制について研究を進めています。また、個に応じたきめ細やかな指導を行い、児童生徒が安心して学ぶことができる環境づくりに取り組んでいます。さらには、お互いに認め合う学校・学級づくりに努め、ポジティブ教育やインクルーシブ教育にも力を入れています。これらの学校教育で培われた力が児童生徒に定着していることを確認する目的で、本調査を行っております。本調査は学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面でありますが、その結果を有効に活用し、今後の授業改善に役立てていきたいと思います。

本調査からは、児童生徒の学習状況や生活の様子についても振り返る材料を得ることができます。学力との関連性など、よりよい生活リズムの習慣化に向けて、ご家庭でもぜひ話題にしてください。

【１】勝山市の平均正答率について

本年度の調査は、「小学校　国語・算数」「中学校　国語・数学・英語」において実施されました。

勝山市全体の平均正答率を、福井県および全国の平均正答率とのポイント差(点数差)により比較します。

「高い」＞３　３≧「やや高い」＞１　１≧「同程度」≧－１　－１＞「やや低い」≧－３　－３＞「低い」

	教科名	県と比較して	国と比較して
小学校	国　語	低い	同程度
	算　数	同程度	同程度
中学校	国　語	高い	高い
	数　学	やや高い	高い
	英　語	（高い）	（高い）

※中学校英語は、IRT スコアでの採点のため、参考値となります。

【２】各教科の概要について

＜小学校＞

	成　果	課　題
国語	○相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えること ○話や文章の種類と特徴について理解すること ○文章を読んで理解したことに基づいてまとめること	▲学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと ▲筋道の通った文章になるように、文章全体の構成や展開を考えること ▲目的に応じて、必要な情報を見つけること

算数	○小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくること ○示された二つの表から、誤りを見つけ、その根拠を表の中の数値と言葉を用いて記述すること ○帯グラフの特徴と用い方を理解し、およその割合を読み取ること	▲体積の意味を理解し、立方体の体積を計算によって求めること ▲日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述すること ▲数を四捨五入して、概数で表すこと ▲異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述すること

【国語】

○休み時間の過ごし方についての動画を作成する場面において、構成メモの工夫として適切なものを選択し、相手に伝わるように理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように構成を考えることができていました。日頃から、国語だけでなく様々な場面において、相手意識を持って話す活動を取り入れている成果です。相手意識を持つことで、話す内容や話し方など、考えなければならないことがたくさんあります。上手なコミュニケーションをとる上で、今後、必要になってくる力だと言えます。

▲文章の中の一部を漢字に書き直すことが全国平均や県平均と比べて、低い結果となりました。今回の問題の漢字は、日常的に児童が使う漢字です。国語の時間だから漢字を使うのではなく、日頃から既習した漢字を使って、文章を書くことを習慣にしていくことが大切です。ICT 機器の普及により、簡単に漢字に変換できる時代ではありますが、実際に自分の手で正しい漢字を書ける力を身に付けていけるといいです。

▲筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることが、全国平均や県平均と比べて、低い結果となりました。伝えたいことを分かりやすく伝えるためには、内容の中心を明確にした上で、「考えと理由や事例」「原因と結果」「疑問と解決」などのつながりを意識しながら、文章全体の筋道を捉えていくことが大切です。

【算数】

○1 から９までの数字が書かれたカードから３枚を選び、条件に合った小数をつくることがよくできていました。小数も整数と同じように、十進位取り記数法の仕組みで表すことができることを正しく理解しています。

○２つの表から全員分のアンケートが整理されていない学級を見つけ、その根拠を説明することができていました。また、帯グラフを読み取ることもよくできていました。日頃から、算数の授業ではもちろん、社会や理科の授業においても、表やグラフから読み取れる情報を話し合う活動に取り組んでいる成果です。

▲１辺が８ｃｍの立方体の体積を求める式を答える問題や１㎤の立方体を３６個使ってできる直方体の体積を求める問題で、全国平均や県平均と比べて低い結果となりました。体積の公式を覚えるだけでなく、数学的活動を通して、体積の単位についての理解を深めたり、立方体や直方体の体積が計算によって求められることに気づいたりできるようにしていくことが大切です。

▲５桁の整数を千の位までの概数にすることに課題が見られました。概数は日常生活の場面においても活用できます。形式的に処理するのではなく、他教科等の学習場面や新聞記事等に多く用いられている概数に日頃から触れ、概数を読み取ったり、自ら概数を用いる場面を設けたりすることが大切です。

▲分母の違う分数の大小を比較する問題において、全国平均や県平均より低い結果となりました。分数は、分母を揃え分子を比べることで、大小比較ができることを理解していることが大切です。通分や約分ができることは、分数の加法減法へとつながります。通分・約分の意味をしっかりと身に付けているとよいです。

＜中学校＞

	成　果	課　題
国語	○目的や場面に応じて、集めた材料を整理し、伝えたい内容を検討すること ○文章に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うこと ○表現の効果を考えて描写すること	▲単語の類別について理解すること ▲情報と情報との関係の様々な表し方を理解し、使うこと
数学	○同類項の意味を理解していること ○問題場面における考察の対象を明確に捉えること ○与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取ること ○筋道を立てて証明すること	▲具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すこと ▲事柄が成り立つ理由を文字を使って説明するための方針を立てること ▲累積度数の意味を理解すること
英語	○日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ること ○音声や語彙、表現、文法、言語の働きの知識を、読むことによる実際のコミュニケーションにおいて活用すること ○日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くこと	▲社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くこと ▲音声や語彙、表現、文法、言語の働きの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用すること

【国語】

○話し合いの場面において、発言について説明したものとして適切なものを選択することがよくできていました。学校では、様々な場面で話し合いが行われます。発言の意図を汲み取り、より良い話し合いになるように進めることができることは大切な力です。

○文章作成ソフトを使って随筆を書く場面で、文章作成ソフトに表示された意味と用例を参考にして漢字を書くとき、漢字の組み合わせとして適切なものを選択することが全国平均や県平均と比べて、と

ても高い結果となりました。文脈に即した漢字を正しく書けることは、日常においても大切な力です。日頃から、文章を書く場面において、漢字を書く習慣を身に付けることが大切です。

〇表現の効果を考えて、気持ちがより伝わるように描写することがよくできていました。質問調査「本を読むために、どれくらい学校図書館に行きますか」という項目で、全国平均や県平均よりと比べて高い結果となりました。日頃から、読書に親しんでいることが伺えます。描写表現などは、たくさんの読書経験から身につきます。まずは好きな本を見つけ、一冊でも多くの本を読めるとよいです。

▲「投げられる」という言葉について、「投げる」という動詞＋「られる」という助動詞で成り立っていることを正しく選択することが全国平均や県平均よりも低い結果となりました。単語の活用、助詞や助動詞などの働きについて理解していることは大切です。

【数学】

〇同類項の意味を正しく理解し、7x の同類項を選ぶことがよくできていました。数学用語を正しく理解することは大切です。授業においても、数学用語を適切に使い、数学的な表現を用いて説明し合う活動を大事に取り組んでいきます。

〇与えられた表やグラフから、必要な情報を読み取り、座標を答えることがよくできていました。

〇三角形の合同条件を基にして、筋道を立てて証明することが全国平均や県平均よりも高い結果となりました。日頃から、証明問題にしっかりと取り組み、数学的表現を用いて正しく証明できる力が身に付いています。

▲最高気温が５℃、最低気温が－４℃のとき、「最高気温は最低気温より□℃高い」という□にあてはまる数を求める問題において、全国平均や県平均より低い結果となりました。正の数・負の数の計算ができないのではなく、問題を正しく捉えられなかったのではないかと考えられます。場面状況を正しく捉える力を身に付けることが必要です。

▲１から９までの数字から２つを選んで、手順に従って３けたの自然数をつくる場面において、具体的な数ですべての場合を調べずに、文字を使って方針を完成するために、当てはまるものを選ぶことが全国平均や県平均よりも低い結果となりました。友だちが考えた方法を自分の言葉で説明することは、内容をしっかりと理解していなければできません。授業においても、このような場面を大切にし、学びを深めていけるように努めていきます。

【英語】

今年度、中学校英語は、CBT 調査（オンライン方式）で実施されました。公開問題と非公開問題を組み合わせて出題されました。公開問題は調査日によって出題が異なり、非公開問題は生徒ごとに異なる問題を解きます。個々の問題の内容や結果は示されていません。上記の結果は、市全体の結果ではありませんが、市の傾向として書いてあります。今後の学びの参考にしてください。

【３】児童生徒質問紙について

（１）「良好な点」と「改善したい点」について

生活態度面や全般的な学習態度面の調査結果について、「良好な点」として、県・全国の平均値と比べて上回ったものを中心に、「改善したい点」として、県・全国の平均値と比べて明らかに下回ったものを中心にまとめました。

＜小学校＞

良好な点	改善したい点
○「学校の勉強のことについて、親や家族と話す」と答えた児童の割合が高い。 （市 42.0%　県 38.3%　国 40.6%） ○「自分にはよいところがある」と答えている児童の割合が高い。　（市 90.0%　県 86.4%　国 85.6%） ○「先生はあなたの良いところを認めてくれている」と答えた児童の割合が高い。 （市 96.0%　県 92.9%　国 91.4%） ○「学校へ行くのは楽しい」と答えた児童の割合が高い。 （市 91.3%　県 86.7%　国 85.7%） ○「普段の生活の中で、幸せな気持ちになる」と答えた児童の割合が高い。　（市 96.0%　県 93.5%　国 92.5%） ○「学校の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりする」と答えた児童の割合が高い。 （市 88.7%　県 88.2%　国 85.7%） ○「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりしている」と答えた児童の割合が高い。 （市 92.7%　県 89.6%　国 86.9%） ○「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と答えた児童の割合が高い。 （市 86.0%　県 82.9%　国 80.1%）	▲「毎日同じくらいの時刻に寝ている」と答えた児童の割合が低い。 （市 81.0%　県 82.5%　国 80.5%） ▲「人と違う意見を言っても否定されない」と答えた児童の割合が低い。 （市 65.3%　県 68.1%　国 69.6%） ▲「休み時間に図書館に行く」「休日に地域の図書館に行く」と答えた児童の割合が低い。 ▲国語・算数・英語の各教科で、それぞれ「得意」「好き」と答えた児童の割合が低い。また、それらの授業が「よく分かる」と答えている児童の割合も低い。

○「自分にはよいところがある」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになる」と答えた児童の割合が県や全国の割合と比べて、高い結果となりました。勝山市の全ての学校において、ポジティブ教育に取り組んでいる成果だと考えます。今後も、継続して取り組んでいこうと思います。

○「学校に行くのは楽しい」と答えた児童の割合が高いです。同時に、「先生は、あなたの良いところを認めてくれている」と答えた児童の割合も高いです。相談できる教員がいる場所としての学校運営、学級経営に今後も努めていきます。ご家庭でも、お子様との会話や行動の様子から、気になることがありましたらすぐに学校にご連絡ください。保護者と学校が共に考えることで、どの子も「学校に行くのは楽しい」と思えるように努めていきます。

○「学校の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりする」「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりしている」と答えた児童の割合が高い結果となりました。児童は、友だちと話し合うことを通じて学びを深めています。今後も、授業だけでなく様々な場面において、児童の思いを大切にした話し合いを大事にしながら、教育活動を進めていきたいと思います。

▲「寝る時間が決まっている」と答えた児童の割合が県や全国の平均と比べて、低い結果となりました。

規則正しい生活習慣は、学習の能率をあげることにつながるため、学力調査の結果にも直結していると考えられます。今後ともお子様と生活リズムについて考える機会を定期的にもっていただけるとありがたいです。

▲「人と違う意見を言っても否定されない」という項目において、県や全国より低い結果となりました。話し合いを大事にしていく教育活動において、安心して自分の意見が言える環境であることは必須です。学級経営を見直し、一人一人の意見や考えが大事にされるように努めます。

▲「昼休みや放課後に本を読んだり借りたりするために、図書館へ行く」「休日に本を読んだり借りたりするために、地域の図書館へ行く」と答えた児童の割合が低い結果となりました。学校では、読み聞かせを取り入れたり、魅力ある図書館になるように努めたりしています。まずは、一冊好きな本を見つけ、読書に親しむ習慣が身に付くといいですね。

▲「国語の勉強は好き」「算数の勉強は好き」「英語の勉強は好き」と答えた児童の割合が低いです。「国語の勉強は得意」「算数の勉強は得意」「英語の勉強は得意」と答えた児童の割合も低いです。児童が「わかる・楽しい」と思える授業改善に向けて研究を進めていきます。また、児童理解を図り、一人一人に寄り添った授業づくりに努め、学ぶことの楽しさや学ぶ意味を感じられるような授業を目指します。

＜中学校＞

良好な点	改善したい点
○「将来の夢や目標を持っている」と答える生徒の割合が県や全国平均と比べて高い。 （市 76.9%　県 70.4%　国 67.6%） ○「学校に行くのは楽しい」と答える生徒の割合が県や全国平均と比べて高い。 （市 90.5%　県 88.8%　国 85.4%） ○「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と答える生徒の割合が高い。 （市 87.3%　県 83.4%　国 78.6%） ○「友だち関係に満足している」と答える生徒の割合が高い。（市 95.2%　県 92.8%　国 91.2%） ○「あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されない」と答えた生徒の割合が高い。 （市 72.8%　県 72.1%　国 67.5%） ○「道徳の授業では、自分の考えを深めたり学級やグループで話し合ったりしている」と答えた生徒の割合が高い。 （市 96.6%　県 93.6%　国 91.3%）	▲「毎日同じ時間に起きる」と答える生徒の割合が県より低い。 （市 81.0%　県 82.8%　国 80.5%） ▲「毎日同じ時間に寝る」と答える生徒の割合が県より低い。 （市 92.6%　県 93.1%　国 92.4%） ▲「自分にはよいところがある」と答える生徒の割合が県より低い。 （市 85.0%　県 87.2%　国 84.0%） ▲学校以外で勉強をしないと答える生徒がいる。

○「将来の夢や目標を持っている」と答えた生徒の割合が県や全国より高い結果となりました。各校で取り組んでいるポジティブ教育で自己肯定感が高まってきていると感じます。また、キャリア教育の充実により、自己の将来について考える時間が増えた結果と思われます。今後も、ポジティブ教育やキャリ

ア教育に力を注いでいきます。

○「学校に行くのは楽しい」と答えた生徒の割合が県や全国より高い結果となりました。同時に、「友達関係に満足している」と答えた生徒の割合も高い結果となりました。楽しい学校生活と友達関係は、大きく関係しています。悩みを分かってくれる友達がいる、相談できる先生がいる安心感が充実した楽しい学校生活につながります。今後も、生徒の気持ちに寄り添い、居心地の良い学校づくりを目指します。

○「あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されない」と答える生徒の割合が県や全国より高い結果となりました。また、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり学級やグループで話し合ったりしている」と答えた生徒の割合も高いです。学級が、自分の考えを積極的に表現できる環境であるということです。多くの生徒が積極的に表現できる環境とは、周りが自分の意見に耳を傾けてくれると感じることができ、安心して過ごすことができる環境であると言えます。今後も一人一人を大切にし、互いを尊重し合える仲間づくり、絆づくりを進めていきます。

▲「起きる時間が決まっている」「寝る時間が決まっている」と答えた生徒の割合が県より低い結果となりました。中学生になると、寝る時間が遅くなる生徒も多く見られます。規則正しい生活習慣は、学習の能率をあげることにつながるため、学力調査の結果にも直結していると考えられます。今後ともお子さんと生活リズムについて考える機会を定期的に持っていただけるとありがたいです。

▲学校の時間以外に、勉強をしない生徒がいます。全国と比べると少ないですが、県と比べて多い割合となりました。主体的に学ぶ気持ちや態度は、学習習慣と大きく関係すると考えられます。家庭での学習習慣を身に付けることは大切なことです。保護者の皆様の協力なしでは、家庭学習を身に付けることは難しいです。ぜひ、家庭学習の大切さについてお子様と話す機会を持っていただけるとありがたいです。

（２）正答率との間に関連が見られた質問項目について

ここ数年の分析と今年度特に気になった点から、教科の正答率と相関関係が見られた項目について、主なものを８例まとめました。ぜひ、ご家庭でも話題にしてください。

なお、右側の欄内のポイント数は、各項目について「している」「当てはまる」と答えた児童生徒と、「全くしていない」「当てはまらない」と答えた児童生徒との平均正答率のおおよその差を、教科ごとに示したものです。

項　　目	教科ごとの正答率の差
就寝時刻が定まっている児童生徒は正答率が高い。 **５回連続同じ傾向**	小学国語　３２ポイント差 小学算数　４１　〃 中学国語　１２　〃 中学数学　２７　〃
「前学年までに受けた授業において、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と答えている生徒は、正答率が高い。 **７回連続同じ傾向**	小学国語　１５ポイント差 小学算数　２５　〃 中学国語　２３　〃 中学数学　２６　〃
「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と感じている児童生徒は、正答率が高い。 **６回連続同じ傾向**	小学国語　２２ポイント差 小学算数　１９　〃 中学国語　１４　〃

	中学数学　２０　〃
「学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と答えた生徒は、正答率が高い。 **６回連続同じ傾向**	小学国語　１５ポイント差 小学算数　１３　〃 中学国語　１５　〃 中学数学　１５　〃
「学習した内容について、わかった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と答えた生徒は、正答率が高い。 **５回連続同じ傾向**	小学国語　１９ポイント差 小学算数　３６　〃 中学国語　１７　〃 中学数学　１５　〃
「〇〇の勉強は好きだ」と答えている児童生徒は、正答率が高い。 **国語と算数・数学は６回連続同じ傾向**	小学国語　１２ポイント差 小学算数　２８　〃 中学国語　２７　〃 中学数学　３４　〃

〇基本的な生活習慣に関する結果を見ると、起床時間が定まっている・就寝時間が定まっている児童生徒は正答率が高いという結果が見られました。規則正しい生活を送ることは、学習を計画的に行うことにつながり、学習を効率よく進めることにもつながることがわかります。年齢が上がると生活習慣が乱れやすくなりがちですが、起床時間が決まっている生徒が９割を超え、就寝時間が決まっている生徒も８割を超えています。とても良いことです。近年、SNS の普及により就寝時間が遅くなる児童生徒が多くなっています。自分で自分を管理しきれない小学生段階では、保護者の声かけ・手助けが重要になってきます。学年が上がるにつれて、自分で判断し、行動に移すことができる力を付けていけるよう、学校と家庭が共通理解のもとお子さんを支援していけるといいです。

　また、朝ごはんを毎日食べることについては、小学生、中学生共に「全く食べない」と答えた児童生徒が数名おり、正答率にも大きな差がありました。やはり朝食を食べると食べないとでは、授業に対する集中力ややる気が変わってくるものと思われます。睡眠や食事のとり方などを含め、毎日のスケジュール管理など工夫しながら進めていけるよう支援していきます。

〇前学年までに受けた授業に関する質問で、「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」の項目は、ここ数年連続で、否定的な回答をしている児童生徒に比べ、肯定的な回答をしている児童生徒の正答率がかなり高いという結果でした。学習に対し、主体的に取り組んでいることを自覚している児童生徒は、学力が定着していることの証拠です。得意な学習、好きな教科だけでなく、すべての取組みに対して、自分にあったやり方で自分のものにしていく根気が身に付くとすばらしいです。

〇自分と違う意見について考えたり、学級の友達と話し合いを通じて自分の考えを深めたり、広げたり、互いの意見のよさを生かして解決方法を考えたりするなど、意見の交流を大切にして、自分の考えをよりよいものにしていこうとすることは、深い学びを実現していくためには欠かせない要素であると考えられます。学校でも、学級全体での話し合いはもちろん、ペア活動やグループ活動など様々な場面において、児童生徒が話し合う場面を大切にしています。仲間との協働的な学びは、多様な考え方や意見を生み出すためには重要です。今後も仲間と学び合う場面を多く設定していきます。

〇好きな教科の正答率が高いという傾向は、毎年変わらず見取ることができます。好きな教科は意欲的に学習できるため、おのずと正答率はあがります。好きな教科をつくるためには、興味や疑問をもって学習に臨むことが鍵になってくると考えます。難しい＝苦手ではなく、難しい問題を解くことができた達

成感を味わうことも重要です。児童生徒が難しい課題に立ち向かう力、解決する力をつけるための支援を引き続き行っていきます。

【４】今後の方針について

（１）学校で取り組むこと　※以下のもの以外にも、各校の方針があります。

＜ア＞安心して、楽しく学習や活動に取り組める環境づくり

最も大切にしたいこととして、児童生徒が安心して学習や活動に取り組むことができる環境を提供できるよう、全教職員が共通理解のもと教育活動を進めていきます。そのためにも、一人一人を大切にした学級経営や授業づくりに努めます。また、いじめや不登校等を生まない「魅力ある学校づくり」にも力を入れていきます。児童生徒がお互いのよいところを認め合い、思いやりの心が育つよう支援していきます。さらに、個性を大切にし、多様性を認め合う心を養いながら、人と人とのつながりを意識し支え合う中で、共生社会の実現を目指していきます。不安や問題を抱えている児童生徒に対しては、家庭および関係機関との連携のもと、気持ちに寄り添った支援を迅速に行っていきます。

＜イ＞児童生徒が主体の楽しくわかる学びの推進

学力の向上には、児童生徒が主体的に学ぶことが不可欠です。主体的な学びを進めるためには、自ら課題を設定し、ＩＣＴ機器等を活用して情報を集め、それらを整理しながら、友達と意見交流や考えを共有する中で、自分なりの答えをまとめ、表現するといった学習展開が必要です。全ての教科で、既習事項を生かしたり、疑問に思ったことを追究したりしながら、さらに次の学びへつなげていけるよう支援します。タブレット端末を用いることは、学習の中ではごく自然に行われるという感覚になってきています。児童生徒が使っている姿を見ても想像以上にスムーズです。学習ツールの１つとして自然に選択できるまでになってきたことは大変よいことです。今後は、ＩＣＴ機器をよりよく使いこなせる情報化社会を生きる人を目指して、判断力を磨き、責任をもって利用する児童生徒が育つための支援（デジタル・シティズンシップ教育）を充実させていきます。児童生徒一人一人の学びの進捗状況や良い点を教員が積極的に評価し、学習意欲の向上に努めるとともに、指導の過程や成果の評価を授業改善に生かしていきます。

（２）ご家庭にお願いしたいこと

＜ア＞規則正しい生活習慣の定着

児童生徒の学力向上のベースは規則正しい生活習慣であると考えます。健全な学校生活を送ることができてこそ、学力の定着が図れると考えます。小学校低学年では、見通しを持てるように手厚く支援していただき、小学校高学年では、少しずつ自分で判断して実践することを増やしていきながら、中学生では、自分のことは自分で管理し、責任ある行動をすることができるようになることが理想です。生活習慣の大切さを児童生徒自身が理解できれば、週末や長期休業で生活リズムが崩れることも少なくなると思われます。“規則正しくしなければならない”ではなく“規則正しい生活がしたい”と思えるような感覚を身に付けることができるよう、今後とも見守り、支えてくださいますようお願いいたします。

＜イ＞児童生徒の学習状況の把握

学校は、学期に１度お子様の学習の状況を保護者の方にお伝えしています。何が得意で、何に力を入れていくとよいのかを、学校生活の中での成長をわかりやすく伝えるように努めています。ご家庭においても学習の内容を話題に挙げ、お子様が学習の様子を自分で語る機会をぜひ大切にしてください。そして、今何をがんばっているのかを把握していただけると、保護者懇談でお話していることをより深くご理解いただけることと思います。家庭と学校で一緒にお子様のがんばりを認めていけると、より自信をもって学び続けることができると考えます。

＜ウ＞学校と家庭の連携、関係機関との連携

学校では、安心して過ごすことができる環境づくりに努めていますが、問題が全く起こらないようにすることは困難です。いじめ等の問題行動や不登校等の未然防止には、学校と家庭が連携し、できるだけ早く発見し、対応していくことが欠かせません。何か気がかりなことがありましたら、些細なことでも学校に連絡相談いただけると助かります。大きな問題になる前に、児童生徒に関わるすべての方の協力で防ぎたいと考えます。また、必要に応じて専門的な機関との連携も、保護者の方の理解のもと進めていきたいと考えております。

以上の点につきまして、ご協力をお願いいたします。

【５】結び・おわりに

結果の良い悪いだけで、児童生徒のがんばりを評価することはできませんが、勝山市全体として、今回の結果とこれまでの取組みを振り返ることで、今後の児童生徒の主体的に学びに向かう姿勢につなげていこうと考えます。学びには、新しい発見や驚き、疑問を持つことが大切です。新しい知識や考えが備わっていく過程を自ら楽しみながら学ぶことができる児童生徒が育つよう、しっかりと支援していきます。

この全国学力・学習状況調査では、児童生徒の学びの成果の一部を調査したに過ぎませんが、大きく変化し続ける社会を生き抜くための力を育成するためには、小中学生の間に主体的に学びに向かい、困難な課題にも立ち向かって解決する力を付けていくことが重要になります。そうした観点から、この調査の結果を各校でもより具体的に分析しながら、より一層、学力向上に努めてまいります。

保護者の皆様をはじめ市民の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。